

知的障害養護学校における情報教育

和歌山大学教育学部附属養護学校 小栗 信
ホームページ <http://www.pal.wakayama-u.ac.jp>
電子メール ogurim@center.wakayama-u.ac.jp
キーワード：知的障害養護学校，情報教育，IT 活用

1. 実践研究のねらい

- ・知的障害養護学校高等部における教科「情報」の試行研究
- ・知的障害養護学校における IT 機器の教育利用の試行研究
- ・障害児とネットワークを支援する研究団体との連携

2. 本校の情報教育計画（平成 14 年 4 月現在）

(1) 情報教育方針

社会の急速なコンピュータ、ネットワークの普及、メディアの拡大、情報化の進展は社会に大きな変化をもたらしている。知的障害を持つ児童生徒にとってもそのことは無縁ではなく、生活や卒業後の社会生活の中でも様々なメディアと関わり、情報機器を活用していく場面が多くなってきている。情報化への対応として、児童生徒が情報の選択・活用が出来るようになったり、情報発信・受信のルールを身につけるなどの情報活用能力を育成していかなければならない。

また、障害を補完したり、学習を支援する手段として、教科学習、教科領域を合わせた学習において情報機器を利用した指導の充実を図っていかなければならない。

(2) 目標

情報機器に関心を持たせ、様々な生活場面での利用、社会生活を豊かにしていくための利用(QOL)ができるような情報活用能力を育成する。必要な情報を主体的に収集・活用し、表現・発信・伝達できる力を育成する。

様々なメディアを活用する力、メディア等を利用したコミュニケーションの力を育成する。

ネットワークの科学的理解とネットワークの先には人がいることを理解させる。

コンピュータ等の情報機器や新聞・雑誌・テレビ等からの情報に対する判断力、情報化社会に参画する態度、情報発信や受信においての情報モラルや判断力を育成する。

情報機器を利用した学習支援の実践を進める。(教職員)

3. 中学部・高等部における授業実践

(1) 高等部必修教科「情報」

本校高等部では、平成 12 年度より選択教科、今年度より必修教科として「情報」の授業を試行している。目標や計画については前項で述べたが、「情報活用能力」はもとより、情報をコンピュータインターネットに限定することなく、マスコミ情報、携帯電話等の情報社会に「参画する態度」を育成する学習に課題を見いだしている。具体的には、チェーンメール、デマメール、ウィルス添付メールの対処、掲示板等利用でのマナー、携帯電話の利用等、トラブル回避だけではなく責任能力の問題に関しての学習を進めている。

(2) 教科領域、教科・領域を合わせた指導での IT 活用

本校では全普通教室、特別教室に情報端末、1～2 台のコンピュータが整備されている。授業ではデジタルカメラやプロジェクター等を利用した授業が頻繁に行われており、それらの IT 機器を自由に使いこなす児童生徒も多い。

具体的には、中学部では交流学习にテレビ会議システム、メール、ビデオストリーミングを利用したり、中高等部の「生活」の授業では、校外学習での調べ学習に Web からの情報収集を生徒が行い、計画をワープロ等でまとめている。また、高等部「進路」の授業では、卒業後の就労生活を送るために必要な情報を収集選択し、問題解決をしていく学習が行われている。他にも国語・数学等での Web 上のデジタルコンテンツの利用、後述するチャレンジキッズの利用等が行われている。

4. 他研究会との連携

(1) 協働参画型学習者共同体である研究プロジェクト「チャレンジキッズ」

本校中学部高等部では「情報」や「生活」の授業で、障害児のためのインターネットを活用したイントラネットである「チャレンジキッズ」(滋賀附属養護学校がサーバー構築)を活用している。他養護学校の生徒や先生方とのやりとりの中

で、相互作用による学びにより、自信をつけた生徒の変容がみられるようになってきた。

また、本校では、和歌山県内の養護学校との交流ができるような電子会議室（チャレンジみかん）の準備を進めている。

参照 URL <http://fyw.sue.shiga-u.ac.jp/cha-ken/index.html>

(2) CCN 和歌山「和歌山障害児とコンピュータ・ネットワーク利用研究会」

和歌山県内を中心に、障害児のコンピュータ・ネットワーク教育利用、及び AAC, AATC に関する研究、情報交換やその利用推進を図ることを目的として、和歌山県内の養護学校の教員を中心に、大学研究者、学生、保護者、企業の方（マスコミ、IT 関連、通信関連等）、情報教育関連者が参加している。主な活動は、メーリングリストによる情報交換、2 ヶ月に 1 回の研修会、隔月の会報発行（Web 上）、年 1 回の宿泊研修会を行っている。

現在までの活動は、「スイッチ作成講座」「講演：ネットワークの現在、未来」「電子会議室利用講座」「研究会報告会」「親子パソコン教室（学校、作業所）」「教材作成講習」、また、他団体研究会への参加、他研究団体と共催しての研究会開催等であり、研修した成果は本校児童生徒や、県内養護学校での情報教育等へ還元されている。

参照 URL <http://www2.to/CCN/>

6 . 成果と課題

本校では平成 8 年度に児童生徒用コンピュータ・周辺機器、平成 8 年度にネットワークが導入されて以来授業や休憩時間等でコンピュータを活用してきた。当初から、情報教育室には鍵をかけず、児童生徒に自由に利用させている。現在まで故障等大きな問題なく利用してきている。ネットワークに関しても自由に利用出来る環境を整備してきた。また、授業等での IT 機器の利用や学習の結果、児童生徒はテレビや電話のような家電と同じような感覚で、パソコンを起動させ、ホームページからの情報収集を行うようになってきている。「情報活用能力」の育成に関しては一定の成果が出ていると感じている。

課題としては、情報化社会に参画するにあたっての態度適性、責任能力の問題、中重度児童生徒の IT 利用（動画やアニメーション、ソフトの開発等）があげられる。